

ヒヨドリ の 誕生 から 巣 立ち まで



6月24日

家の裏に植えてあるさるすべりの木に鳥が巣を作り始めていた。鳥の種数はまだわからない。ビニール製のヒモや木の枝などを使って少しだけ形づくられていた。激しい雨があけた日だった。



今朝見たら巣作りしていた鳥(一回)小さい鳥が巣の中でジッとしていた。卵を産みあためているのかな?

動機

私の家の裏に植えてあるさるすべりの木に鳥が巣を作り始めていた。こまによく見える位置に鳥の巣を見るのは初めてだ。これから巣立つまで観察していこうと思う。



7月2日

気付けば親鳥がいなかった。二階から巣をみたら中に卵が4個あった。おおよそ直径2cm、センチ程度。表面は黒いマダラ模様が入っており、ちやちやとウズラ卵のようだった。親鳥は卵を放っておいてどこかにいった。枝に留まり数回鳴くと、どこからか返事の鳴き声がかし。それを観察すると再び巣に入り、卵をあためた。さきの鳥だった。明日は雨の予報。どうするんだろう。何日でふ化するんだろう。ひなとりも黒色だろうか。

7月22日

だいぶ大きくなった。羽をバタバタするとこぼれそうなくらいだ。体もかなり大きくなり、目もみれているように思う。いつ巣立つのだろうか。



7月14日

今日は朝から雨だった。朝はまだ親鳥は巣に座っているが、何かいつもよりかたかた感じがした。いつもと少しちやちや鳴き声が何度も聞こえたので窺ってみると、親鳥が何かをくわえて、虫のようなものをくわえて、巣のふちにたて、何となく巣の中に入させやっていた。二階から見ると、昨日まであった卵がなく、茶色い物体が木黄たわっていた。それは赤らみ鳥であった。何羽かほかくにんできた。無事生まれて安心した。

7月25日

巣立った。

ヒヨドリの生態

形態

全長は約27.5cm。翼開長は約40cm。尾は長めでムクドリやツグミより体型はほっそりしている。くちばしは黒くて先がとがる。雌雄同色。

生態

里山や公園などある程度木のある環境に多く生息し、都市部でも見られる。飛ぶときは数回羽ばたくと翼をたたんで滑空するパターンを繰り返して飛ぶため、飛ぶ軌道は波型になる。鳴き声は「ヒヨ! ヒヨ!」などと甲高く聞こえ、和名はこの鳴き声に由来する説がある。日本では周年見られるが春および秋には渡りが各地で確認される。秋には暖地へ移動する個体も多く、10-11月には渡りが日本各地で観察され、島根半島南端-伊良湖岬のほか、関門海峡では1000羽を越えて渡る群れも観察される。果実や花の蜜を食べる。繁殖期は果実に加え昆虫類もよく捕食する。非繁殖期は果実がほとんどである。ツバキなどの蜜も好む。5-9月にかけて繁殖する。木の枝下に外径12-20cmの体の大きさに比べると小型の巣をつくる。高さ1-5mに営巣し、巣は椀形で、小枝、木切れつる、イネ科の茎、細根、市街地ではビニールの紐などを使って作られ、産座に松葉やシロなど、めすのみによって12-14日間抱卵され、ふ化したひなは雌雄により育てられる。ひなはほとんどの1-2ヶ月は親鳥とともに行動する。

